

「親子でピザ作り体験教室」事業報告書

事業推進係員 古賀久恵

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 親子でピザ作り体験を通して、身近にある食材でおいしいピザができることに気付くとともに食事をつくる大変さを身をもって経験し、家族への感謝の心を育て、家族間の交流を深める。また、ボランティアが中心となって事業を企画・実施することで、ボランティアとしての資質の向上を図る。
- (2) 期 日 平成 29 年 6 月 3 日（土）～ 4 日（日） 1泊 2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 52名（17家族）
- (5) 担当職員 古賀久恵（事業推進係員） 三枝ひとみ（企画指導専門職）
山下正晃（企画指導専門職） 松元延行（事業推進係長）
佐藤ゆり子（事務補佐員）
- (6) 企画ボランティア 赤池雄汰（熊本大学3年） 小林桃菜（熊本大学3年） 廣重 舞（熊本大学3年）
- (7) 支援ボランティア 村上舜亮（熊本高専1年） 角田誉幸（熊本高専1年） 石田悠太（社会人）
土持 亮（社会人） 橋本沙季（熊本大学2年） 村田暁彦（熊本大学2年）
福永華乃（熊本大学2年）
- (7) 内 容 【1日目】親子レクリエーション(アイスブレイク、ミニミニ運動会)
絵本の読み聞かせ
【2日目】ピザ作り

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「幼少の娘を連れての参加でしたが、時間配分もゆとりがあって無理なく活動できたと思います。」「同年代のファミリーと同じ体験を通して、家族の思い出ができてよかったです。」等の参加者の感想があった。ボランティアによる親子で楽しめるよう工夫されたプログラムやゆとりをもった時間設定を行うことで、親子が無理なく楽しんで活動ができた。また、ほかの家族と協力して活動できるようにピザ作りの班を一緒にしたことで、参加者同士の交流が深まり、参加者の高い満足度を得ることができた。（満足 80%、やや満足 20%）
- 「初めて運営をしたときに比べると落ち着いて説明できたので、以前よりは成長してよかったです。」などの運営ボランティアの感想があり、ボランティアとしての資質の向上が見られた。また、当日参加したボランティアからも、「意外とできるんじゃないかと思っていても、やってみるとうまくいなくて、やっぱり回数をこなさないと見えない、気づかない部分もあるのかなと思った。」などの感想があり、支援ボランティアの学びの場となるとともに、今後のボランティア活動への意欲を高めることができた。
- 衛生面や片付けの手間を考慮して、ビニール袋を使ったピザの生地作りを行ったことで、参加者が安心して作ることができ、片付けも予定よりスムーズに行うことができた。また、子どもたちも楽しみながら作ることができた。

(2) 課 題

- 支援ボランティアが当日の流れを把握できていなかったため、どのように支援すればよいか悩む場面があった。今後は事前に運営ボランティアと支援ボランティアをつなぐとともに、支援ボランティアへの具体的な情報提供を行う必要がある。
- 作ることの大変さや家族への感謝の気持ちなど、子どもたちの食への関心をさらに高めるために、みんなで協力して片付けを行う時間や家族間で活動をふりかえる時間を設定するなどの工夫が必要である。

3 事業の様子



運営ボランティアによるアイスブレイク



ボランティア自主企画「ミニミニ運動会」



ボランティア自主企画「ミニミニ運動会」表彰式



ボランティア自主企画「絵本の読み聞かせ」



朝のつどいの様子



ピザ作りの様子



ピザ作りの様子



閉会式の様子